令和8年　第8回奈井江町教育委員会会議録（第1日）

招集年月日	令和8年8月20日			招集場所	公民館　中会議室		
開会日時	開会	令和8年8月27日			午後　0　時　56　分		
閉会日時	閉会	令和8年8月27日			午後　2　時　32　分		
応招委員	教育長	相澤　公	○	委員	山本　和樹	○	
出席５名	職務代理者	三原　新	○	委員	田口　友子	○	
欠席名	委員	塩田　邦恵	○				
議事出席職員	事務局長	遠藤　友幸			傍聴人		
	文化振興係主幹	菊地　純			0人		
	教育支援係主幹	井上　圭世					

	号数	件名	可否区分
会議に付した議事案件	報告第1号	教育長行政報告	承認
		「義務教育9年間の学校の仕組みはどうあるべきか」に関する答申ついて	
	議案第1号	令和8年度教育費補正予算について	可決
	議案第2号	全国学力・学習状況調査の公表について	可決
	議案第3号	令和9年度から使用する教科用図書の採択について	可決

令和８年第８回奈井江町教育委員会議事録

	１.開会　12:56
遠藤局長	定刻より少し早いですが、みなさんお揃いですので、ただ今より第８回奈井江町教育委員会を開催いたします。教育長、挨拶以降進行についてよろしくお願いいたします。
相澤教育長	教育委員会ご出席お疲れ様です。毎週末、様々なイベントが続いていましたが、少し一段落し、次は 10 月からにまたいろいろ予定されている状況です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。 次第３番、前回の会議録の承認の説明をお願いします。
井上主幹	**３．前回（令和８年７月 23 日）会議録説明**
相澤教育長	皆さんから何かございますか。
山本委員	議事録２ページの私の発言の中で「先生」と記載されている箇所は「司書」の誤りかと思います。
井上主幹	修正いたします。
相澤教育長	その他ございますか。
委員	ありません
相澤教育長	それでは、承認とします。
相澤教育長	**４．報告　報告第１号　教育長行政報告** １ページをご覧ください。 ７月 25 日、学校が夏季休業に入っています。 週が変わりまして、７月 28 日から公設塾「ななかま」の朝活事業を開始しております。１・２年生については 31 日までの４日間、３年生から６年生については８月上旬までの４日間、それぞれ開催しております。 そして８月 15 日、子ども盆踊りの地域行事も開催されています。 そして８月 19 日から小中学校が始まっております。翌日８月 20 日、校長・教頭会議の中で子どもたちの様子を確認しましたが、まだ学校が始まって間もない時期ではありましたが、小学校、中学校とも、概ね元気に登校していると聞いております。 ８月 22 日、産業まつりが開催されました。教育関係では、子ども会議が出店したほか、ステージでも様々な PR や発表を行ってくれています。 ８月 25 日・26 日は、中部大学の深谷先生に来町いただき、25 日は図書館で「ことばの夜カフェ」を開催し、26 日は小学校にて子ども向けの辞書引き学習の特別授業を全学年２回に分けて行っていただきました。 以上、行政報告とさせていただきます。ご質問等ございませんか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは、報告済みといたします。
相澤教育長	それでは、**次第５番「義務教育９年間の学校の仕組みはどうあるべきか」に関する答申について**です。 昨年度、教育委員会から学校運営協議会に対し、奈井江町の学校教育にとって最適な義務教育９年間のあり方、学校の仕組みをどのようにすべきかにつ

相澤教育長	いて諮問しております。 　学校運営協議会では約１年間にわたり協議を重ねていただき、このたび答申を完成していただきました。本日は、その答申を教育委員会に提出していただきます。 　説明後、質問等がありましたら、その場で発言していただく時間も設けながら進めたいと思います。よろしくお願いいたします。 　暫時休憩いたします。
	～暫時休憩～　学校運営協議会小山会長、菅原コーディネーター着席
相澤教育長	会議を再開いたします。 　それでは、答申について説明をお願いいたします。
小山会長	答申説明
相澤教育長	ありがとうございました。奈井江町の教育の現状や、目指す学校のあり方について、本当に丁寧にまとめていただきました。 　今、答申書に基づいて説明いただきましたが、文章には書き切れなかったことや、特にこのような議論があったということがあれば、補足いただければと思います。
菅原コーディネーター	奈井江町のこれまでの取組を確認する中で、小中一貫教育に関する様々な資料を読んできました。小中一貫型小学校・中学校と義務教育学校についても、例えば「この形なら必ず６・４・２にする」というように、制度上すべてが決まっているわけではありません。全国の自治体が、それぞれの地域で何が一番良いかを考えて、様々なやり方を行っています。 　学校運営協議会には教育関係者だけではなく、保護者、PTA、企業など様々な立場の委員がいます。その中で、学校形態の細かな制度設計まで議論するのは難しく、もっと時間をかけて、何が課題なのか、そのためにはどのような施設が必要なのか、その施設で何ができるのかなど、総合的に検討した上で少しずつ形が見えてくるものだと理解しました。
相澤教育長	小山会長はどうですか。
小山会長	視察には行けなかったのですが、この１年間の協議を通して、義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校がどういうものなのかを学びました。どちらが良いという結論は、もちろん簡単には出せませんでした。どちらにも良いところ、課題があります。実際に取り組んでいる学校も、まだ十分に評価できる段階ではないところがあります。奈井江町にはどちらが合っているのかについては、今後さらに教育関係者の専門的な知識も踏まえて検討していく必要があるということを学びました。
相澤教育長	ありがとうございます。答申をいただいたばかりにはなりますが、教育委員さんから特に聞いておきたいことがあればお願いします。
三原委員	本当に大きなテーマを、時間をかけて丁寧にまとめていただいたと思います。ありがとうございます。答申をお伺いして「連携」なのか「一貫」なのかという二択だとすると、ほぼ満場一致で「一貫」という考えになったのではないかというくらい強い印象を受けました。実際の議論もそのような感じだったのでしょうか。

小山会長	そうですね。
菅原コーディネーター	小中連携というのは、それぞれの学校が別々の組織として、それぞれより良い教育を考えて進めているものです。ただ、協議会の皆さんの考えとしては、奈井江町の子どもたちの９年間を一貫して育てて欲しいという思いが強かったと思います。そのためには、それぞれの学校が相手の学校のことをよく知らないという状況ではなく、９年間全体を理解した上で育てていく必要があります。その意味で、「連携」ではなく「一貫」で取り組んで欲しい、という意見だったと思います。
相澤教育長	塩田委員はどうですか。
塩田委員	１年間、何度も会議を重ねていただき、本当にありがとうございました。 答申にも出ていますが、ソフト面だけではなく、子どもたちが学ぶ施設、ハード面にも今後議論を広げていかなければならないと思います。老朽化した校舎に改修費をかけるのか、新しい校舎を建て、小中学校をどのような形にしていくのかということについては、これからかなり時間をかけて話し合う必要があると思います。素晴らしい答申をいただきましたので、教育委員会でも今後議論を重ねていきたいと思います。
相澤教育長	田口委員はどうですか。
田口委員	本当にたくさん時間をかけて、大変だったと思います。ありがとうございました。 答申を読みながら、こういう考えの方々がいらっしゃるのだな、自分も同じだなと感じました。その中で、地域との連携は今でも大事ですし、これからさらに大切になると思います。一方で、子ども会なども縮小し、地域との関わりそのものが縮小傾向にあります。今後の教育には地域との連携が必要だと皆さんが感じていたのか、また、自分たちも関わっていこうという気持ちが議論の中にあったのか、そのあたりを伺いたいと思います。
小山会長	グループワークでは、地域の企業の方、学校の先生など様々な立場の方と話をしました。その中で、「奈井江町は地域と関わる授業や活動が多いよね」という話が出ています。参加者それぞれが持っている情報や経験も出し合いながら、「これはやっぱり大事にした方がいい」、「９年間の中に位置づけて続けていければいいよね」という話がありました。皆さん、概ね同じような気持ちだったのではないかと感じています。
菅原コーディネーター	例えば「中１ギャップ」という言葉一つをとっても、学習面の中１ギャップなのか、生活面、心理面の中１ギャップなのか、人によってイメージが違うと思います。そこをもっと深掘りして、本当に解消すべきギャップは何なのか、逆に残してよいギャップは何なのかを整理する必要があると思います。中学校に入ったときの大きなギャップによって、子どもたちが急激に成長する部分もあるので、「そのギャップは残して欲しい」という意見もありました。何をなくし、何を残すのかを確認した上で、例えば４・３・２や５・４など、学年をどのように区切るのかという議論につながるのだと思います。 義務教育学校で、例えば５年生が一つの区切りの最高学年になるなら、これまで６年生が担っていたリーダー的な役割を５年生に担わせるという考え方

菅原コーディネーター	もあります。全国にはいろいろな事例がありますので、成功例も課題も見ながら検討する必要があるかと思います。
相澤教育長	山本委員どうですか。
山本委員	答申を拝見し、そのとおりだなと思うことがたくさんありました。中１ギャップの話を聞いて、自分も感じることがあります。小学校６年生は最高学年なので、とても大人っぽく見えます。ところが１年たって中学校１年生になり、中学校のジャージを着て登校している姿を見ると、急に幼く見えることがあります。一番上だった子が、また一番下に戻り、そこからスタートする。９年間を一貫した教育にすると、その成長がもう少し滑らかになるのかもしれないと感じました。どういった方向を選んでもメリット・デメリットがあると思いますので、今後、この資料を基に教育委員会で議論していかなければならないと思います。ありがとうございました。
菅原コーディネーター	小学校と中学校では教育の性格に違いもあります。小学校は初等教育、中学校、高校は中等教育と位置付けられ、中学校は中等教育の前期、高校は後期という考え方があります。小学校段階の心の成長と、中学生の思春期を含めた心の成長は違います。ですから、小学校６年生の状態がそのまま中学校３年間に続くことが、本当に良いことなのかどうかは別の問題であることを付け加えさせていただきたいと思います。
三原委員	資料６について一ついいですか。「目指す子ども像」というキーワードがあります。これは自分自身の話ですが、教育委員の立場では「生きる力が大事だ」と言う一方で、家に帰ると子どもには「勉強しろ」と言っています。 資料を見ると、「義務教育９年間でどう育てたいか」という問いに対して、現役の保護者世代は「勉強」に関する意見が多く、子育てを終えた世代は「生きる力」の話をしているように見えます。結局どちらなのか、当然両方なのだろうとは思いますが、そのような議論はありましたか。
菅原コーディネーター	最終的には、社会に出たときに自分で生きていける力を身につけるという大きな目的があります。そのために、それぞれの段階で身につけなければならない力があります。もちろん学習指導要領もありますので、それらを含めて全体として考えることになると思います。 現在は組織が別なので、小学校の先生は１年生から６年生までの子どもを思い浮かべて教育していますし、中学校の先生は中学１年から３年までを思い浮かべて教育しています。中学校の先生が、小学１年生から６年間どのように育ち、何を勉強してきて中学校に来ているのかを、すべて理解しているかというと、必ずしもそうではありません。逆も同じです。 小１から中３まで、この町の子どもたちが何を学び、どのように育ってきたのかを、小学校、中学校双方の先生が理解して教育に当たることが重要です。そうでなければ、内容の重複や抜けが生じる可能性があります。そこをきちんとする必要があるという認識は、皆さん共通していたと思います。
小山会長	「どう育てたいか」というところまで具体的な結論が出たかというと、そこまでは行かなかったように思います。メリット、課題について話している中で、それぞれの立場から様々な意見は出ましたが、「では最終的にどうしたい

小山会長	のか」というところまでは整理できませんでした。ただ、「みんなで育てていこう」という部分については、共通認識としてあったと思います。部活動の問題、不登校の子どもたちをどうするのかなど、話題が広がることもありましたが、子どもたちを町全体で育てるという意識は共通していました。
相澤教育長	それでは、最後に私から、答申をまとめていただき本当にありがとうございました。 教育委員会として、答申をしっかり受け止め、これから議論を進めていきたいと思います。課題もたくさんありますので、拙速に結論を出さず、時間をかけながらじっくり議論したいと思います。学校運営協議会の皆さんには、長い時間をかけて協議いただいたことについて、教育委員会からも改めてお礼を申し上げたいと思います。小山会長におかれましては、学校運営協議会においても委員さんにも謝辞を伝えていただければと思います。ありがとうございました。 暫時休憩いたします。
	～暫時休憩～　学校運営協議会小山会長・菅原コーディネーター退席
相澤教育長	会議を再開いたします。 今後、目指す教育に取り組んでいく上で、スケジュールや具体的な進め方についても少し整理していきたいと思います。 事務局の担当には、近隣自治体や先行自治体がどのように議論を進め、住民合意を形成してきたのかについて聞き取り、整理してもらっています。小さな町で、小学校が 100 人を切っているような地域では、「もう１つにしよう」ということがある程度前提となって進んでいる自治体もあります。それでも３年程度かけて議論し、その後に校舎整備等へ入っている例があります。一方、砂川市の場合は、最初に適正配置について議論し、２年目に一定の方針を決定、その途中から学校や地域への説明会を行っています。その反応も見ながら、３年目には教育委員会で複数回議論し、その後、学校の先生方などで構成する統合準備委員会で検討し、４年目に義務教育学校の構想がまとまるというような流れだったと理解しています。 奈井江町の現在の状況は、砂川市でいうと、その適正配置の方針をまとめる前段階に近いのかなと思っています。今回はまだ教育委員会として何かを決定したわけではなく、答申を受け取った段階です。ですから、すぐ学校や地域に説明する段階ではなく、まず教育委員会で議論する必要があると思っています。 今回いただいた答申をもとに、半年程度かけて、この会議で制度を学んだり、奈井江町の子どもの人数を考えた場合にどの形が良いのか、メリット、デメリットを含めて議論したいと思います。教育委員会として、「このような形が奈井江町の教育にとって望ましい」と一定の考えをまとめた上で、保護者や地域への説明に入っていく流れを想定しています。 今日は答申をいただいたばかりですので、ここで結論を出すことは考えていません。次回以降、半年くらいかけてしっかり議論したいと思っています。
相澤教育長	そして、令和９年度の教育行政執行方針の中で、一定の方向性を示すことがで

相澤教育長	きればと考えています。 ただこの議論の中で、ハードの問題まで踏み込むと、既存施設をどうするのか、新たに建設するのか、予算をどうするのかという問題が出てきてしまいますので、まずはハードの話を一旦横に置いて、ソフト面、つまり「どういう教育の形が良いのか」、「子どもたちにとって何が良いのか」を中心に議論していきたいと思っています。 ここまでについて、感想であたったり、違うのではないかという点があればお願いします。
三原委員	次のステップとして「専門的な知識を持った人たちで検討する」と答申にありますが、それは教育委員会として方向性を決めた後のステップということでしょうか。
相澤教育長	そう思っています。議論するときには、ある程度のたたき台がないと話ができないと思っていますので、まず教育委員会で一度、一定の意思決定をする。ただし、それを「何を言われてもこれで進める」ということにはせず、住民、先生、場合によっては子どもたちの意見も聞きながら、我々で「それはそうだな」と思うことがあれば修正していけばよいと思っています。
塩田委員	どうしてもハードの話ばかりが頭に浮かびますが、最初にソフト面から話すということは大事だと思います。
相澤教育長	どうしても、議論の中でハードの話も出てきてしまうとは思うのですが、基本はソフト面を中心に議論を進めていくことになります。
田口委員	私たち自身、これから話し合うに当たって、今持っている知識だけでは少し足りないと思いました。議論を開始するにあたり、どこまで準備をしたらよいのかということもあります。
相澤教育長	そうですね。次回までに、例えば砂川市が教育委員会で６回程度議論したとすれば、具体的にどのようなテーマを議論したのかを調べ、紹介できればと思います。９月は制度を学ぶ、10 月は前月学んだことをもとに議論するといった形になるかもしれません。 国からも義務教育学校のあり方や進め方について平成 28 年 12 月 26 日に文部科学省から「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」が出されていますので、少し紹介したいと思います。後から、この資料は皆さんにお配りいたしますので、メモなどを取る必要はありません。
相澤教育長	～「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」抜粋読み上げ～
相澤教育長	一部読み上げさせていただきましたが、改めて申し上げますが、単に６・３の９年間を１つにするということでは足りません。奈井江らしさ、奈井江の子どもたちに必要なものをしっかり考え、９年間の学びの仕組みづくりに臨む必要があります。基本には奈井江町教育ビジョンがありますので、その上で、義務教育９年間に焦点を当てたときに、ビジョンの一部をさらに深掘りするのか、別９年間の学びに関する具体的な目標をつくるのか、そこはまだ決めていません。ただ、「こういう子どもを育てたいから、９年間の学びをこう変えていく」という具体的なものは必要だと思っています。そのことも今後、皆さんと考えていきたいと思います。

相澤教育長	ここまででいかがでしょうか。
委員	異論ありません。
相澤教育長	それでは、来月からどうぞよろしくお願いいたします。
相澤教育長	では、**次第６番「議事」**に入ります。 **議案第１号「令和８年度教育費補正予算について」**事務局より説明お願いいたします。
遠藤局長	説明
相澤教育長	みなさんから質問等ございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは次、**議案第２号「全国学力・学習状況調査の公表について」**事務局の説明をお願いいたします。
遠藤局長	説明
相澤教育長	みなさんから何かございますか。
相澤教育長	学年ごとの違いもありますので、今年高かったから今後もずっと良いということではないと思います。ただ、今年の小学６年生がこれだけ良い結果を出したことは嬉しいことだと思います。 一方、中学校は、小学校６年生時点では全国との差がそれほど大きくなかったものが、今回かなり広がっています。そこをどう評価し、どのような対策につなげるかが必要だと思います。 例えば、学校が保護者向けに配付した資料だけをみて分析すると、小学校の質問紙を見ると、１時間以上勉強している児童は全国より少ないですが、「30分以上１時間未満」の層は奈井江町の方が多い。一定程度の家庭学習習慣が身についていることが、もしかすると結果に影響しているのかもしれないとも読み取れましたし、中学校では、スマートフォン等を３時間以上使用している生徒が全国よりかなり多いという結果もあります。先ほど学校の仕組みについて話した際、小学校では経験的な理解で対応できる学習から、中学校に向けて理論的、抽象的な理解が必要になるという話がありました。その移行がうまくいかないと学習上のつまずきが生じる。もしかすると、それが今回の中学生の点数にも出ているのかなと思いながら資料を見ていました。皆さんはどう感じましたか。
三原委員	私の記憶では、昨年度の６年生が初めて全国平均を上回ったと思います。それだけでも驚きましたが、２年連続で、しかも差を広げているとなると、何が要因なのだろうと思います。学校でテスト対策の授業をしているわけではないですよね。そうであれば、本当にすごい結果だと思います。いろいろな取組の成果が出ているのかなと感じています。
山本委員	中学生を見ると、特に数学が大きく下がっています。中学校に入ると、それまでになかったＸやＹ、方程式などが出てきます。そこでつまずき始めると、次々と分からなくなり、数学から距離を置いてしまう子もいるのではないかと思います。できる子は、小学校から身につけてきた力で対応できますが、つまずいた子が多くなると平均点も下がります。また、数学でも結局は文章を読み取る力が必要です。問題文を理解できるかという、国語力、読解力も大きい

山本委員	のではないかと思って見ていました。
相澤教育長	中学校の分析にも、問題文から情報を整理して問われている内容を把握したり、既習事項を生かして問題を解いたりする力を高める必要があると書かれています。まさにそうだと思います。国語力、読解力の育成が非常に重要だと思います。
山本委員	本を読むことも大事だと思います。最初から難しい本を読ませるのではなく、絵本でもよいし、読みやすいものから始める。難しい本が読める子はもちろん読めばよいですが、一人ひとりに合った本を選ぶことも必要だと思います。中学校の図書室にも漫画などがありますが、例えば北海道の歴史的背景に興味を持つきっかけになるものなど、「字を読む」入口として漫画を活用するのもよいのではないでしょうか。
相澤教育長	小学校では司書が本を勧めたり、読み聞かせをしたりしています。深谷先生による辞書引きの取組みも始めていますし、そういった取組が積み重なれば、今の６年生が中学校に進んだ後も、良い方向につながる可能性はあると思っています。
塩田委員	うちの孫も今６年生ですが、私の目の前ではあまり勉強しているように見えません。サッカーをして、休日もサッカーをして、時間があればスマートフォンでゲームをしています。それでも 30 分以上 1 時間未満の家庭学習が身についているのかもしれません。 国語については、話を聞き出す力も大事だと思います。例えば子どもが「誰かと喧嘩した」と親に話しても、何を言っているのか分からないことがあります。自分が経験したことを順序立てて話す力がまだ十分ではない。大人が話を聞くときに、子どもが自分の言葉で説明できるよう引き出してあげることも必要だと思います。思春期になると、自分の気持ちを伝えられず、閉じてしまうこともあります。日常的に話す力をつけていくことも大切だと感じています。
三原委員	公設塾「ななかま」を多く利用している学年と、あまり利用していない学年で、今回の結果と何か相関はありそうですか。
井上主幹	感覚的な話になってしまいますが、今の中学 3 年生はあまり利用していない学年です。先日、小学校、中学校の先生にも参加いただいたワーキングがあり、その中でも話をしました。中学 3 年生はそろそろ受験モードに入るので、夏休み明けに改めて「通っておいで」と呼びかけたり、通塾を促すチラシやポスターを学校で配ったり掲示したりできないかと相談しました。先生からは、「掲示しても大きくは変わらないかもしれない」という話もありました。質問紙に出ているように二極化していて、意識がある子はきちんとやるけれども、意識がない子にどれだけ声をかけても難しいのではないか、という感覚のようでした。ただ、それでも１人でも２人でも通ってきて、少しでも成績が上がるのであれば無駄ではないと思いますので、周知はさせて欲しいとお願いし、学校からも了承いただいています。引き続き取り組みたいと思います。 今の「ななかま」を開設する前は中学生中心の公設塾を実施していましたが、小学生から始める形式に変えた理由にしたのも、学習習慣をつけて欲しいと

井上主幹	ということでした。ただ、やはり学年ごとの個性はかなりあると先生も言っていますので、昨年度、今年度の６年生は結果が良いですが、来年度以降も同じとは限らないとのことでした。学習が苦手な子の多い学年もありますので、小学部の「ななかま」でも小学３年生から継続して取り組んでいますので、その差が開かないようしっかりと学習支援を続けていければと思います。
相澤教育長	一方で、子どもの成長は学力だけではないと思っていて、朝活事業の中で行った探究授業で、３年生が主体となり、５年生がサポートする取組を行った際、１年前だったら下級生をサポートできなかっただろうと思う子が、きちんと関わり支える姿が見られました。１年１年子どもたちは成長しています。ただ、そうした個人の成長と、学習習慣をどう結びつけるのかは、また別の課題だと思っています。
相澤教育長	その他ございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは次、**議案第３号「令和９年度から使用する教科用図書の採択について」**事務局の説明をお願いします。
遠藤局長	説明
相澤教育長	みなさんから何かございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	それでは次第７番「その他」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	**７．その他** 〇連絡事項 ・教育支援係分～井上主幹説明 追加：ななかま特別授業予定について追加説明 ・文化振興係分～菊地主幹説明 ９月１日～音楽協力隊２名（岸本さん、馬場さん）任用 〇市町村教育委員会研究協議会（前期）分科会内容情報共有したい。 ～各自レポート等まとめ事務局まで提出することとする。 〇次回開催　令和８年９月 17 日（木）午後１時 00 分～
相澤教育長	その他、みなさんから、何かございますか。
委員	ありません。
相澤教育長	以上で、第８回教育委員会を終了いたします。
	８．閉会　14：32